

## 竹口町長、名和小6年生に 特別授業を行う！

6年生国語科「町の幸福論」では、自分たちの住む町について調べ、自分たちが考えた町の未来についてプレゼンテーション（提案）を行うという学習があります。

この学習を進めるにあたり、6年生の児童たちから、「大山町の町づくりについて町長さんに話を聞きたい、そして自分たちの考えた大山町の未来像について聞いて聞きたい」という願いが出て、今回、竹口町長がゲストティーチャーとして学習に参加されました。

11月7日3校時、緊張気味の児童を前に、町長として感じている町の課題、その解決への道筋や現在の取り組みなど、町政にかける思いを、熱くそして分かりやすい言葉で語っていただきました。また「未来の大人である皆さんが、町づくりについて考えることは大切なことだ」という言葉が、児童たちの学習意欲をさ



▲竹口町長と大山町の未来を熱く語り合う  
(名和小6年生教室にて)

らに高めました。

また、27日2校時には、児童たちが考えた「大山町の未来像」についてのプレゼンテーションを聞いていただきました。

「空家を有効に活用して町の人口増加につなげよう」「農作物を荒らして駆除の対象となっているイノシシの肉や皮を使い特産品を作ろう」などのアイデアや「町長さんのキャラクターを作って町のマスコットにしよう」という児童ならではのユニークな提案もありました。

竹口町長からは、一つ一つのプレゼンテーションに対し丁寧なコメントとともに、「皆さん自身も、挙げた課題を掘り下げて、自分たちに何

ができるのかを考えてほしい」という言葉をいただきました。

竹口町長と語り合った今回の学習は、児童たちにとって、「文章を読み内容を理解する」「考えをまとめ表現する」という国語で培う力を伸ばすだけでなく、自分たちが暮らす大山町の良さを感じ、自分たちの町の将来について考える良い機会になったようです。

## 日本一の和牛に舌鼓！

第11回全国和牛能力共進会の肉牛審査で、大山町の和牛が日本一になったことを記念し、10月に町内小中学校にサイコロステーキが提供されました。

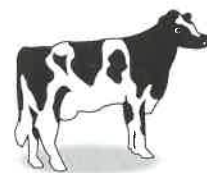
今回のサイコロステーキを提供するにあたり、町内4小学校の4年生と6年生、3中学校の2年生にアンケートを実施しました。

表1より、約半数の児童・生徒が今回の給食にサイコロステーキが提供されるまで、大山町の和牛が日本一になったことを知らなかったことがわかります。

今回の給食提供が、「ふるさと大山を愛する子どもを育てる」取り組みの一つになったと考えられます。

表1 大山町の和牛が日本一になったことを知っていたかどうか

学年	知っていた(人)	知らなかった(人)
小学4年生	55	55
小学6年生	59	60
中学2年生	67	60



### 〔児童・生徒の感想より〕

・とてもおいしかったです。1位ということを知らなかったので、驚きました。(小学4年生)

・とてもやわらかくて、A5ランクのお肉は違うなと思いました。このお肉を大山町の方が作られたと知り、ますますうれしくなりました。(小学6年生)

・同じ中山でこんなにすごい牛が育てられていることに驚きました。肉汁が溢れてきて、今まで食べたお肉の中でNo.1でした。改めて、大山町民だということを自慢に思いました。(中学2年生)